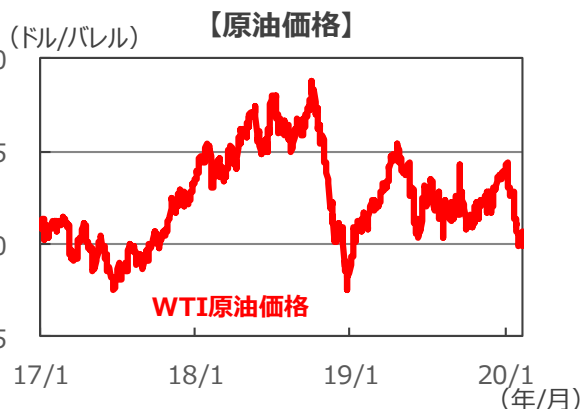


今日のトピック 原油価格は新型コロナウイルスの影響で下落（2020年2月） 追加減産期待で徐々に回復も上値重く

ポイント1 原油価格は一時49米ドル台へ 新型コロナウイルス感染拡大で世界経済に懸念

- 北米の代表的な原油価格であるWTIは、1月初旬は米国とイランの衝突を背景に、一時1バレル＝65米ドル台まで上昇したものの、戦争が回避され下落に転じました。加えて月末にかけて、中国の新型コロナウイルス感染拡大による世界経済への悪影響が懸念され、同50米ドルを割り込む水準まで下落しました。
- 新型コロナウイルスの感染拡大は、中国をはじめ海外各国でも続いています。中国では2月10日以降、徐々に企業活動が再開されていますが、通常の状態に戻るには相応の時間がかかるとみられています。



(注) データは2017年1月1日～2020年2月14日の終値。

WTIは原油価格の代表的な指標のひとつ。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 2020年の原油需要見通し を下方修正

- 2月12日に公表された石油輸出国機構（OPEC）月報の2月号では、2020年の世界の原油需要は日量1億73万バレルと予想し、前月見通しから25万バレル下方修正しました。OPECは「新型コロナウイルスの感染拡大が中国経済に及ぼす影響により、今年の世界経済を巡る不確実性が増大し、その結果、世界的な原油需要の伸びも影響を受ける」と指摘しました。
- 需給の均衡にはOPEC加盟国で日量2,930万バレルの供給が必要とし、前月見通しから17万バレル下方修正しました。来月のOPECとOPECプラスの会合では協調減産の延長や追加減産が見込まれています。

【世界の原油需給見通し】

	2018年	2019年	2020年
世界需要	98.8	99.7	100.7
供給	99.1	99.0	100.7
非OPEC	67.2	69.2	71.4
OPEC	31.9	29.9	29.3
需給バランス	0.3	▲ 0.7	0.0

(注1) 需給バランス＝供給－需要。

(注2) 単位は百万バレル（日量）。

(注3) 2018年は実績。2019年は実績見込み。2020年はOPECによる予想。ただし、2020年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。

(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。

(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 協調減産の拡大が期待されるも 新型コロナウイルス感染拡大リスクに注意

- 新型コロナウイルスの影響により、少なくとも1-3月期は中国などの経済成長が下振れるとみられ、感染拡大やその影響には注意が必要です。原油価格は、経済減速やOPEC非加盟国の供給増と、OPEC等の協調減産や地政学リスクの高まりによる供給不安の綱引きになりますが、減産規模が十分に大きくならない限り上値は重いとみられます。3月5、6日に予定されるOPECとOPECプラスの会合での減産協議の行方が注目されます。

ここもチェック! 2020年2月 5日 吉川レポート：新型コロナウイルスリスク vs. 流動性・低金利
2020年1月22日 原油価格は米イラン全面衝突回避で下落（2020年1月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。